2018 年度活動概要　　バイリンガリズム研究会

バイリンガリズム研究は 1996 年設立以来、CALP や PISA 型リテラシーの発達や育成について研究し、日本の内外におけるバイリンガル教育について調査を行っています。2018 年度は「EAP 教育の開発とその評価―バイリンガリズム理論における CALP 発達の観点から」をテーマとして活動を行いました。本研究会では、EAP 教育とは日本の土壌において大学 1 年生から 2 年生を対象とした、専門教育への橋渡しプログラムととらえています。学生の学習観、学び方、英語力に対応した教育モデルの開発とコース設計を目的として、文献研究と学習者調査を行い、その分析結果を受けて教育プログラムを開発し一部の活動を実践してみました。来年度はさらに実践を続けプログラムの効果を検証する予定です。

１．理論研究

EAP の基本概念を確認するために月 1 回のペースで研究会を開催して以下の本を輪読しました。1) *Introducing English for Academic Purposes*, (Charles and Pecorari, 2015), 2) Hartshorne, Joshua, Tenenbaum, Joshua, & Pinker, Steven. (2018). A critical period for second language acquisition: Evidence from 2/3 million English speakers, *Cognition*.

２．EAP ニーズ分析アンケート実施と分析

研究会メンバーを中心に、Moodle を使用した学習者対象オンライン・アンケートを 5 月と 12 月に作成、実施しました。調査項目として１）学習者の英語力・英語使用経験に関するプロファイル、２）高校で経験した英語科目の学習活動形態、３）高校での、英語以外の教科－国語、理科、社会における言語学習形態、４）英語の必要性をカバーしました。その結果を分析した上で、大学 1 年生に必要なプログラムの設計を開始し、一部を実施しました。

３．講演会と学会発表

公開講演会　10 月 20 日

玉川大学教授　星野あゆみ氏　「国際バカロレアの教育と教員養成」

国際バカロレア（IB）の教員教育プログラムについてアジアや日本における IB プログラムの最新情報を得ることができました。

活動の成果を研究会メンバーが以下のように発表しました。

１）JASELE 京都大会（2018.8.26）『大学入学時の学習者調査から示唆される EAP 教育へのアプローチ』

２）大学英語教育学会(JACET)第 57 回国際大会 How University First-year Students Understand and Perceive

“Learning” English: Its Design and Results

３）同　研究会ポスター発表

４）第 1 回 JAAL-in JACET 学術交流集会『理系学生を対象とした EAP プログラムの開発―論理的思考を伴う言語活動の設計試案―』

５）同　研究会ポスター発表

６）2019 言語教育エキスポ(2019.3.10)『大学生 1，2 年生を対象とした EAP 教材の開発に向けて―足場掛けの設計と実践―』

４．情報公開

研究会のウエブを運営し情報発信しました。http://www.jacet-bilingualism.jp/jp/